

9月 園だより

令和6年9月2日
目黒区立第二上目黒保育園長

0歳児クラスの子がタライの中の氷を手に取り、小さな手のひらでギュッと握りしめます。ところが、眉間を寄せて渋い表情を見せると、落とすように氷をタライに戻しました。その様子を見守っていた保育士が「冷たかったね」と声をかけると、手のひらと氷を交互に見つめたあと、再び氷を手を取っていました。水や氷に触れることの多かった2か月間、遊び始めるとあっという間に洋服をびしょ濡れにしている子どもたちを見て、全身で感触遊びを楽しむ子ども本来の自由さを目の当たりにするようで嬉しい気持ちになったものです。「冷たかったね」と声をかけられた子は“これが『冷たい』ということか”と知り、やがて「つめたい」という言葉を状況や場面に応じて使えるようになります。水の活動は心も体も解放するとともに、言葉と感覚、言葉と行為を結びつける場面も同時に生み出し、言葉の理解や発語の意欲を育むことにもつながっていました。『ひと夏の成長』と端的に表現してもその姿は様々です。一人ひとりの成長を具体的に振り返ることで、秋以降の関わりの手立てにつなげていきたいと思えます。

自園でプールを持たない私立園にプールを開放する『ヒーロープール事業』を延べ8回実施しました。「目黒区の保育園に通う子どもたちに等しく同じ保育の環境を」というねらいの元、私立園の園児たちも楽しみにしている活動でした。プールを終えてヒーローバスを待つ間、玄関先で在園児と同じようにカブトムシやクワガタを観察して楽しむ姿を見て、公立保育園の役割を再認識した事業でもありました。ピロティにどんと構え、子どもたちを楽しませつつ水の危険な側面も教えてくれた大きなプールへの感謝を込めて、第二上目黒保育園としてのプールじまいをしました。

いつでも どこでも ラッセラー
民舞は色とりどりに



引き渡し訓練（全園児）

中旬 身体計測 避難訓練

～0・1・2歳児クラス 民舞の様子～

ピロティやホールで3・4・5歳児クラスが楽しそうに踊る姿を間近に見て、0・1・2歳児クラスの子どもたちも踊りや太鼓を真似て楽しんでいます。

1・2歳児クラスで荒馬踊りをした時のことです。「太鼓の音がちょっと怖い」と言う2歳児クラスの子がいたので「今日はアリさん（くらいの大さの音）で叩くよ」と保育士がそっと太鼓を叩きました。それでも怖さがあったようで、手綱を持って踊る友達の様子を見ています。ところが、いつものようにホールを田んぼに見立て「今日もお馬さんになってお米の虫をやっつけよう」「ラッセラー ラッセラー」と保育士が踊ってみせると、いつの間にか気持ちが変わり、手綱を振って馬になっています。皆で一斉にジャンプする場面（馬が柵を越える様子）では「そ～れ」と大きな声で合図し、きっかけを作ってくれました。実際に踊らなくても声や身振りで表現することで気持ちは皆と一緒に踊っているのです。馬になって元気よく跳び回る子、掛け声で表現する子、保育士と一緒に手をつないで走る子など参加の形は様々ですが、どの子からも楽しんでいる様子が伝わってきます。

子どもも大人も太鼓や笛の音を耳にするとそれだけでワクワクし、一緒に踊れば楽しく喜びが膨らむ、そんな経験がいつでもどこでも誰とでも叶う民舞の時間を大切にしていきます。



トライ・エンジョイ・夏・満喫

『初めてのプール。できるよ、見ててね』

さくら組（3歳児クラス）

幼児クラスになり、初めてのプール遊びを心待ちにしていた子どもたちは「いつになったらプールに入れるの」と毎日のように保育士に尋ねていました。

プール遊びに慣れてきたある日「水に顔をつけてみたい」と言う子がいました。そこで、水に顔をつけるにはどうしたら良いか皆で作戦会議をしたところ、目も口も閉じなければいけないことから「ん“の顔をしたらいいんだ」と気付き「パン」「ピーマン」など“ん”で終わる身近な言葉を考えました。それらを思い浮かべながら水を入れた洗面器に恐る恐る顔をつけてみると「思ったより怖くなかった」と笑顔の感想が聞かれ、たくましく感じました。

不安な子にとっては鼻先や顎を少し水につけるだけでも勇気がいるものです。“やってみよう”と思っただけが実際に出来たことで満足感や自信を感じ、“もっとできる”“もっとやってみよう”と様々なこ

とに挑戦したプール遊びでした。



『プール大好き』

すみれ組（4歳児クラス）

プール遊びでワニ泳ぎが出来るようになると、水の中に半分顔を沈めて「ブクブク」と息を吐けるようになりました。そのうちに潜れるようになる子が現れ、更に友達が潜る姿に刺激を受けて“自分も”と挑戦する気持ちになる子もいました。

水の中でメリーゴーラウンドをやってみた時のことです。手をつないで輪になり、一人ずつ順番に座ります。立っている子が横に歩くと、座っている子のお尻が浮いてきます。歩く子の動きに任せて力を抜くと浮いた体が水流で流され、皆の気持ちが一つになってメリーゴーラウンドの完成です。友達の動きや水の力によって生まれる“浮く”という感覚が面白くて「早くて楽しい」「グルグル回るのがおもしろい」と子どもたちのお気に入りの遊びになりました。

“やってみよう”が“できた”に変わり、存分にプール遊びを楽しむことが出来た夏でした。



『いろいろな“浮く”』

ひまわり組（5歳児クラス）

2リットルの空のペットボトルを浮き輪にして遊びました。子どもたちは本当に浮くのか半信半疑でしたが、両脇に抱えたりして実際に体を預けてみると見事に浮くことが出来ました。思うように浮けない子は友達から「体の力を抜くんだよ」「雲の上にいるような感じで」とアドバイスをもらい、そのとおりにやってみると浮くことが出来ました。嬉しさで、それまで硬かった表情が一気に緩んだ瞬間です。友達からも「すごい、本当に雲の上にいるみたい」「かっこいい」と褒められ、コツを得るとお腹に抱えてラッコのように泳いでみるなど、全身で浮く気持ち良さを感じています。2リットルのペットボトル以外でも浮くのか試したり、イカダや小舟を作ったりして遊びながら様々な方法で水に触れ、不思議さや面白さを感じました。『浮力』にも興味を持ち、もっと浮けるようになるにはどうすれば良いか考えを巡らせ、友達や保育士と予想しながら一緒に答えを見つける楽しさも経験しました。

子どもたちが好奇心を膨らませ「こうしたらどうだろう」「こんなことも出来るんだ」と友達と一緒に考えたり工夫したりすることで、生活や遊びを自分の力で進められるよう援助していきます。

